

飛灰上での芳香族塩素化合物の再合成に対する 塩基性物質の添加効果	
Effect of the Addition of Basic Substances on the Formation of Chlorinated Aromatic Compounds on Fly Ash	
<p> ダイオキシン類の高度排ガス処理技術の一つとして、化学的に再合成を抑制する方法がある。本研究は、化学的抑制方法により、芳香族塩素化合物の再合成の抑制を目指すものである。添加する薬剤としては塩基性物質の NaOH、Ca(OH)₂ を使用した。飛灰を空気、窒素、HCl 混合空気雰囲気下のそれぞれの雰囲気中で NaOH を混合して 300、400℃で加熱すると比較的どの条件でも生成抑制効果がみられた。Ca(OH)₂ を添加した場合は、ほとんどの条件で抑制効果はみられなかった。空気雰囲気と HCl 混合空気雰囲気、CBzs と PCBs の生成量の増加率を比べると、CBzs の方が高い場合が多く、より簡単な構造のものが生成しやすいといえ、<i>de novo</i> 合成が支配的であると示唆された。リキッドセラミックスと NaOH、Ca(OH)₂ の生成抑制能について水酸化物イオン量で比較すると必ずしも水酸化物イオン量に比例して生成抑制がおこなわれてはいなかった。 </p>	
佐々木 崇	Takashi Sasaki
塩基性物質、飛灰、 <i>de novo</i> 合成、クロロベンゼン、PCBs	
basic substances、fly ash、 <i>de novo</i> synthesis、chlorobenzene、PCBs	